

資料 1 - 2

事業名	男性の参加しやすい講座の企画	担当課	中央公民館
-----	----------------	-----	-------

概要説明

この事業は

- ・公民館講座は受講者の多くが女性で、男性参加者が少ないとの意見を受けて、男性の参加しやすい講座の企画

を目的とし

- ・令和5年度中の受講者総数のべ1952名のうち男性参加者は401名と、全体の2割を占めた。
- ・令和6年度に新規に『男の美学』を開催した。(6～10月月1回(第3日曜日午後))
- ・「男の美学」の受講者総数26名のうち男性参加者は13名(5割)だった。
- ・令和7年度も、今年度の成果を生かし上記講座を継続開催する予定。

計画で進めます。

◆この事業で意見を頂きたいこと

- ・令和5年度中の男性参加率が20%をどのようにとらえるか。
- ・男性が参加しやすい講座の在り方についてご示唆をいただきたい。

◆委員の意見等

・事業の質問

各委員さんより様々な質問や提案をいただいた。

・問題・課題

社会教育委員の会(兼)公民館運営審議会で出していただいた意見をまとめ、どう講座を開設するか館長会で話し合った結果、各公民館の地域性や方向性もあり、全体でまとめるのが難しいということになり来年度に向けて講座のあり方や進め方について話し合っていくということになった。

・意見

問題を先伸ばしにしているのではないか

担当課による自己評価

◆良かったこと（成果）

来年度に向けて中央公民館で単発の男性の参加しやすい講座を開講しました。

11月30日（日）9時～13時に「男のかんたん料理教室」を開催、10人募集のところ14人の申し込みがありました。140%の参加率でしたので企画としては大成功でした。

◆課題・問題

◎アンケートによると年齢層が30代1人、60代～80代11人であり、こちらの考えているターゲット層、高齢者もしくは熟年層が多く、今後もこの層に絞っていけるのでは、という感触を得ました。

◎唯一若かった方はおかしづくりがしたいという意見があった。若い世代は甘いものやスイーツといったものも検討する余地があるので、そちらも今後企画していきたい。

◎受講をした理由を聞くと講師に引かれて 参加したという方が6人と多かった。

令和元年頃には料理講座で活躍していた先生なので、ある程度認知度があり、みなさん集まっていただけることができた。今後も認知度のある講師に講座をお願いして行きたい。

◆今後どうしたいか

アンケートにより来年度は講座として男の料理教室を行ってほしい方が6人で、参加者の43%が望んでいる。他の方は単発の教室の方がいい ということなので講座募集で定数を確保しながら、単発の人も随時募集し人数を増やしていく。料理の好き嫌いもあるので、自分の作りたい料理の時に来ていただく。

◆この事業のアピールポイント

趣旨として今後、高齢化が進むようになる。女性は自分で料理できる方が多いが、昭和時代の男性は料理できない人が多い傾向にある。パートナーに先だたれると、自分のごはんも作れない人も多いのではないかと男のかんたん料理教室を企画しました。男性は講座のような連続で行うものが苦手、単発で教室形式で行った方が参加者が増えるのではないかと思います1日だけ開催しました。

広報は中央公民館でチラシの掲示、設置、各公民館への配布とイベントメールの配信を行いました。チラシはわざとがんばる感をださないように作成しました。

委員の意見内容

◆良いところ

「男の簡単料理教室」は今後高齢化で独居老人が増えていくことになり一人でも料理が作れる必要があるというコンセプトがよい。男性が社会活動に参加できるような企画があれば、社会生活、家庭生活も含めて生活に張りが出てくるものと思います。

◆課題、問題点

・男性がリピートしたくなるように公民館講座として何回か続けて実施できるといいと思います。
今後に向けて①「男の・・・」と講座名を設定 ②お菓子づくり ③魅力ある講師 ④単発の開催 ⑤チラシの工夫というように、成功した理由が明確なので来年度以降の開催方法が具体的にイメージできる。開催は「単発講座」、「聞きたいと思う講師」を重点ポイントとして実施すればいいのではないかと。

・公民館でいろいろな講座をやっていることを知られていないと思うので男性にしっかり届くにはどうしたらよいか

◆意見

・「興味のありそうな題材」「参加しやすそう。楽しそうな雰囲気（視聴覚的な）の伝え方により参加者を増やせる。
・各地区での市→区長→班長→個などPRの広報